

雌阿寒岳

1 概況

ポンマチネシリ山頂の赤沼 06 火口群や北西斜面 06 噴気孔列ではやや活発な噴煙活動が続いており、火山活動は引き続きやや活発な状態です。火口近傍では注意が必要です。

2 噴煙および火口の状況

赤沼 06 火口群や北西斜面 06 噴気孔列の噴煙活動はやや活発な状態が続いています。噴煙の高さは火口縁上おおむね 100～200m で推移しました。また、ポンマチネシリ 96-1 火口の噴煙の高さは、火口縁上おおむね 100m 以下で推移しました。

25 日に北海道立地質研究所が行った現地調査では、ポンマチネシリ 96-1 火口の最高温度は約 190℃ で前回（2005 年 10 月の観測では約 280℃）に比べ約 100℃ 低下しました。同火口の火口温度は 2003 年以降、低下傾向が継続して認められています。

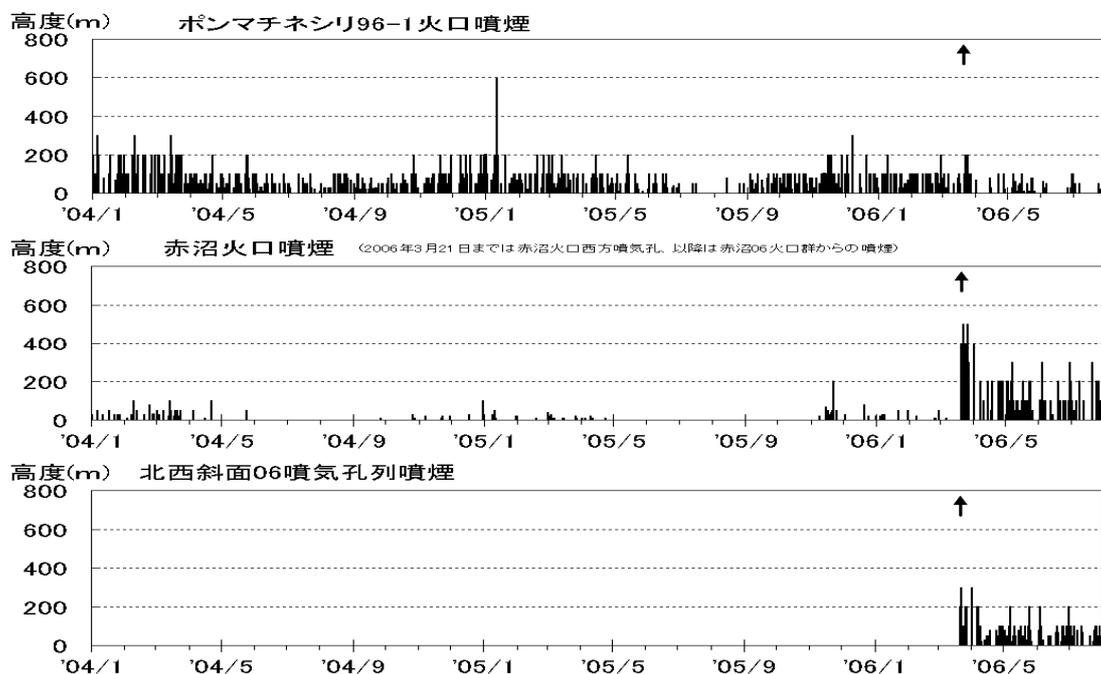


図1 雌阿寒岳 最近の噴煙の状況（2004年1月～2006年7月） ↑印は赤沼火口からの噴火

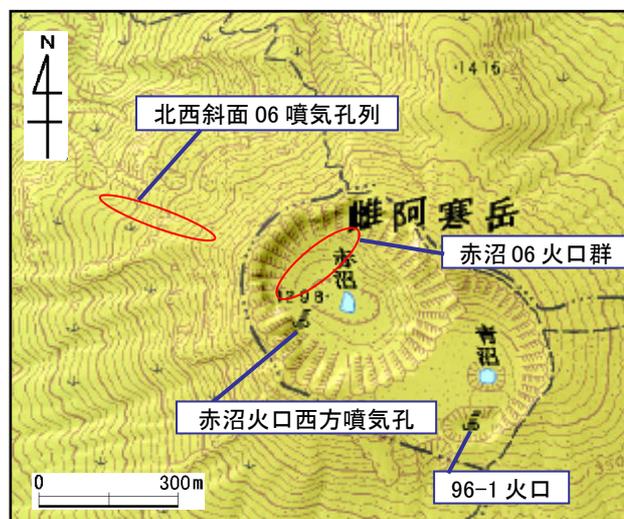


図2 雌阿寒岳 山頂火口周辺図

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ（標高）』および『数値地図 10m メッシュ（火山標高）』を使用しています。（承認番号 平 17 総使、第 503 号）

3 地震および微動の発生状況

地震活動は低調に経過しました。火山性地震は 1 日あたり 0～5 回と少ない状態で推移しました。震源は主にポンマチネシリ火口直下の浅い所（山頂から深さ約 1.5km 付近）に分布していると推定されます。

火山性微動は 5 月 10 日以降、観測されていません。

表 1 雌阿寒岳 地震・微動の月回数（B 点）

2005～2006 年	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月
地震回数	16	18	22	20	44	22	1384	1290	128	986	34	34
微動回数	0	0	0	0	0	0	5	4	0	1	0	0

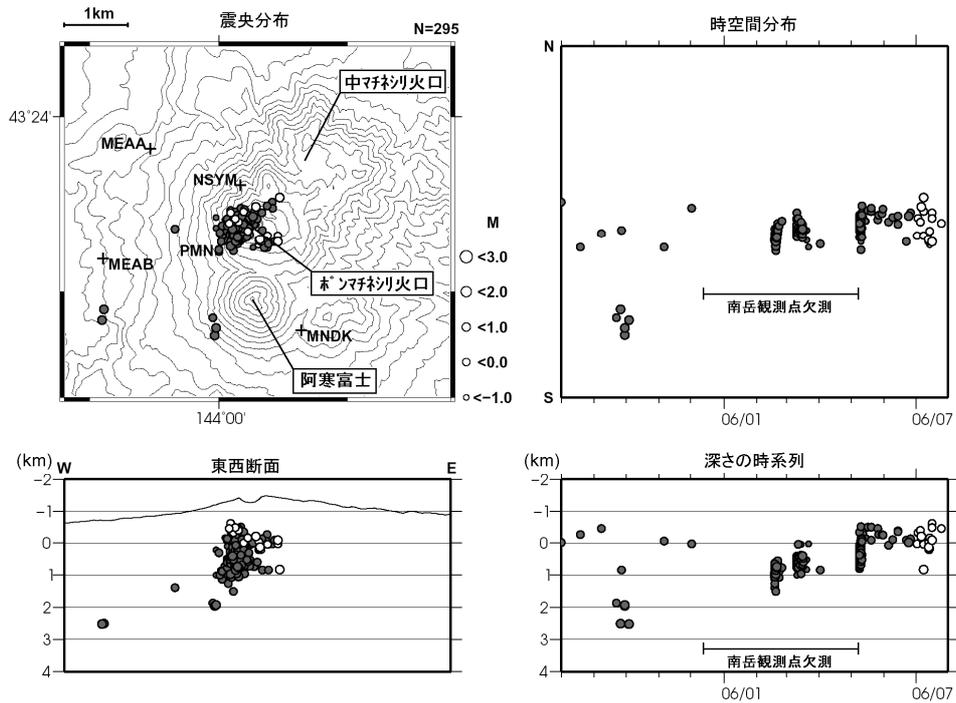


図 2 雌阿寒岳の震源分布図（丸印：震源、+印：地震観測点）

○印は今期間（2006 年 7 月）に求まった震源を示しています。

●印は前期間までの 11 ヶ月間（2005 年 8 月～2006 年 6 月）に求まった震源を示しています。

前期間の雌阿寒岳で発生した地震の多くは、ポンマチネシリ火口直下の浅い所（山頂から深さ約 1.5km 付近）に分布しています。今期間に求まった震源もこの領域内に分布しています。

4 地殻変動の状況

GPS 連続観測では、火山活動に関連すると考えられる変動は観測されませんでした。

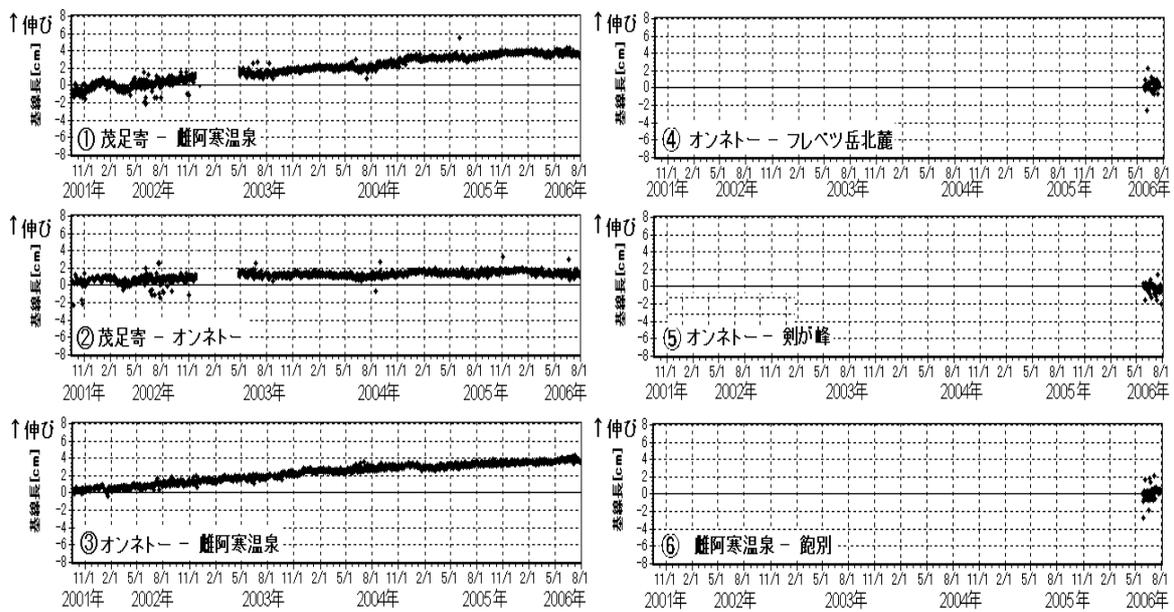


図 3 雌阿寒岳基線長変化（2001 年 9 月 19 日～2006 年 7 月 31 日） グラフの空白部分は欠測

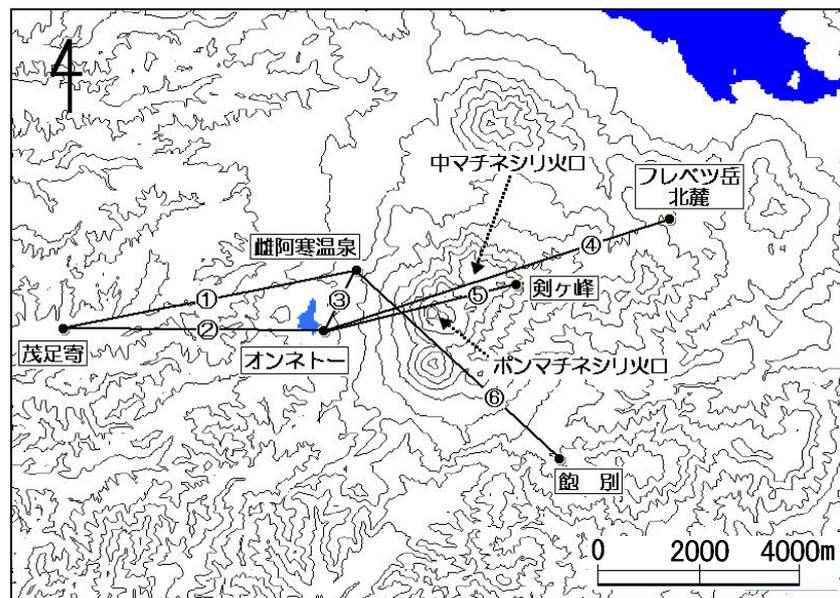


図 4 雌阿寒岳 GPS 連続観測点配置図

※「剣ヶ峰」「フレベツ岳北麓」「飽別」の連続観測点は、2006 年 5 月に観測を開始しました。

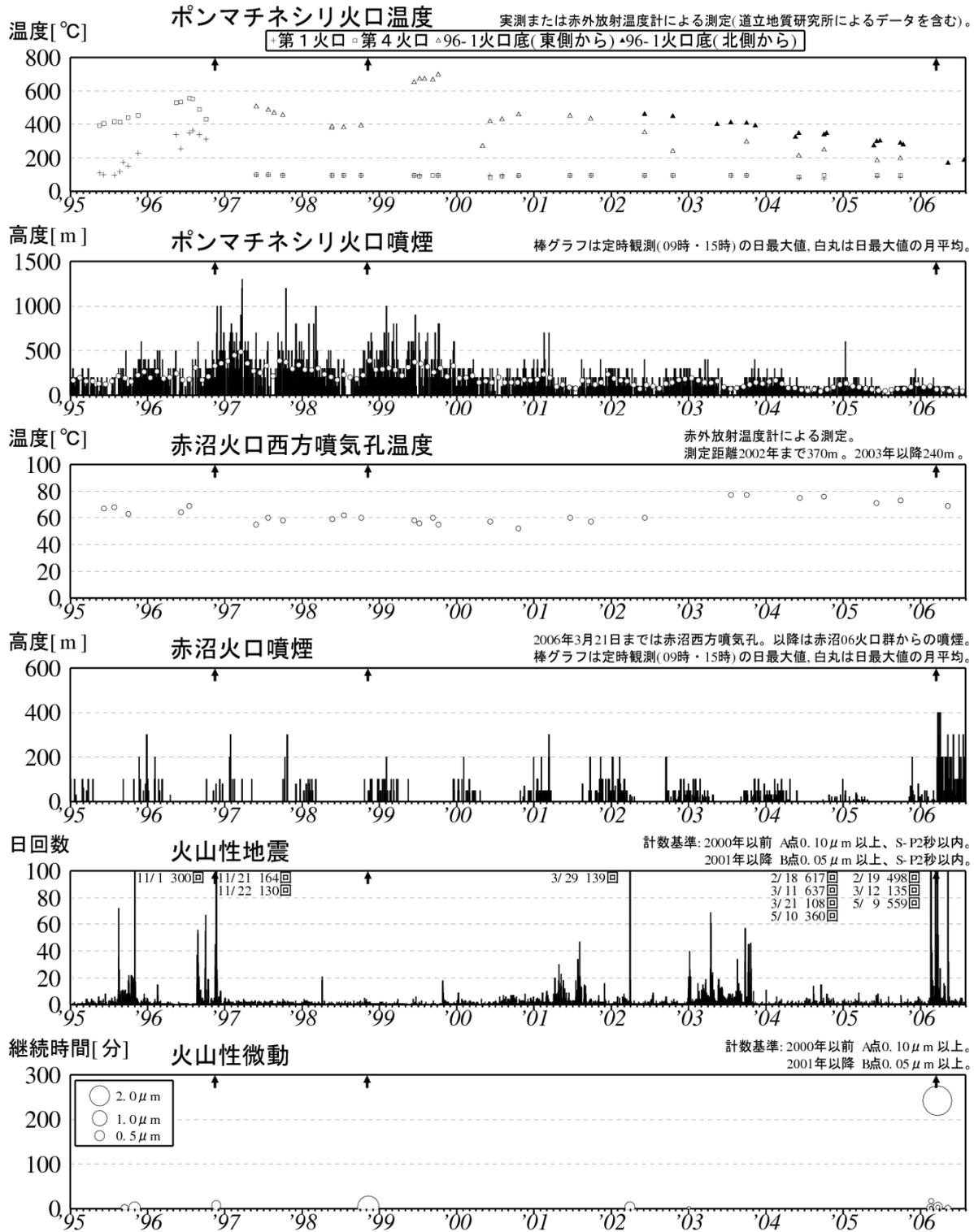


図5 雌阿寒岳 近年の火山活動経過図(1995年1月~2006年7月)

↑印は噴火

1996年、1998年：ポンマチネシリ96-1火口からの噴火

2006年：赤沼火口からの噴火